

## 第2学年音楽科学習指導案

授業者 板橋 薫

### 1 題材名 フーガの仕組みを取り入れて曲をつくろう

### 2 題材の目標

- (1) 音楽が生み出す雰囲気や表情などと音楽の構造との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。
- (2) 音色、リズム、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつとともに、まとまりのある創作表現を創意工夫する。
- (3) 音色、リズム、テクスチュアの違いによって生み出される雰囲気や表情などの変化に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組む。

### 3 題材について

#### (1) 本題材で扱う学習指導要領の内容

第2学年及び第3学年 A表現 (3) 創作

ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫すること。

イ 次の(ア)及び(イ)について、表したいイメージと関わらせて理解すること。

(イ) 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴

ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。

#### [共通事項] (1)

(本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素:「音色」「リズム」「テクスチュア」)

#### (2) 学習指導に当たって

本題材は『小フーガ ト短調』(J.S.Bach)の学習の後に配列する。多声音楽の響きを味わい、その特徴を学んだことに続き、作品の鑑賞から得た知識を創作表現に関連付けることを通して、学習指導要領における創作の目標及び内容の具体化を図る。

題材は全5時間で構成し、題材全体の導入として学習活動に見通しを持つ第1時、課題及び条件に沿った音の選択や組合せを行いながら創作する第2時～第4時、題材のまとめに位置付ける第5時で計画する。活動に際しては、多声音楽を表現するに当たり1人一声部を担当した3～4人によるアンサンブルとし、主体的・協働的な学びを目指す。

『小フーガ ト短調』は長年に渡り教科用図書に掲載され、パイプオルガンの音色や多声音楽の響きに触れることにより、生徒たちにとって音楽の味わい方の広がる学習材である。この学びの延長線上に配列する本題材では、リズムアンサンブル作品『COFFEE BREAK』(Ford Bernacka Ewelina, Ford Mark)を学習材に組み合わせる。『COFFEE BREAK』は、大きさの異なる紙コッ

プを楽器として用いる作品である。一般的に「フーガ」は、主題に対して、応答にあたる旋律が転調しながら展開していく。さらに、主題提示部とパッセージ的な部分とが交替しながら構成されることなど、フーガを厳密に生み出そうとするには多くの知識や技能を要する。本題材では、さまざまな大きさによる紙コップを音素材として用いることで、それらの音高の違いと、主題と応答が転調を経て繰り返し現れたり重なったりしていく状態とを関連させることによってフーガの要素の一端を捉え、創意工夫を生かした音楽表現につなげたいと考えた。

本題材の主たる学習課題は、複数声部で構成された三部形式のリズムアンサンブルを創作することである。A→B→Aの流れのうち、Aの部分には全員共通の箇所として『COFFEE BREAK』の冒頭部分のリズムを取り入れる。Bの部分では前述の観点で“フーガの仕組みを取り入れる”こととし、グループごとに8拍間の主題を考えた上で、演奏に用いる紙コップの大きさや素材なども検討しながら各声部を重ねていく。こうした活動を通して、まとまりのある創作表現を創意工夫することを目指す。なお、五線譜での記譜は行わないこととし、Aで全員共通とするリズムパターンを練習する際や、グループごとに創作する際には、唱歌のようにリズムを発音することによって語感も生かしながら音楽活動を楽しむ雰囲気を仲間と共有させたい。

#### 4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>音素材の特徴及び音の重なり方や反復などの構成上の特徴について表したいイメージと関わらせて理解している。</li> <li>創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽を形づくっている要素（音色、リズム、テクスチャ）や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもち、まとまりのある創作表現を創意工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音色、リズム、テクスチャの違いによる音楽が生み出す雰囲気や表情などの変化に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。</li> </ul>

#### 5 指導と評価の計画（全5時間）

時	◆学習課題・主な学習活動	知・技	思	態
		（ ）内は評価方法		
1	<b>◆紙コップでさまざまな音を鳴らそう</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>『COFFEE BREAK』を参考にしながら、紙コップのさまざまな鳴らし方を試す。</li> <li>冒頭のリズムパターンを練習する。</li> </ul>			↓
2	<b>◆キメのリズムを考えよう</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>3～4人1グループで役割分担をし、冒頭のリズムパターンを練習する。</li> <li>「A」の8拍間のリズムを考え、練習する。</li> </ul>	1 ト 知 ハ ク シ		↓

3 4	<p>◆フーガの仕組みを取り入れて“B”の部分をつくろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>紙コップのさまざまな鳴らし方を試しながら、「B」の主題となる8拍間のリズムパターンを考える。</li> <li>重ねる順番や音の組合せを考え、練習する。</li> </ul> <p>◆アンサンブルを磨こう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな鳴らし方を試したり、リズムを再考したりしながらA→B→Aの流れで練習する。</li> </ul>	<p><b>技</b> 〈観察〉</p>	<p><b>思</b> 〈観察・ワークシート〉</p>	
5	<p>◆発表会を楽しもう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発表会を通して互いの作品を鑑賞し、さまざまな表現の工夫に気付いたり、よさを感じ取ったりする。</li> <li>学習活動全体を振り返る。</li> </ul>			<p><b>態</b> 〈ワークシート〉 〈観察・ワークシート〉</p>

## 6 本時の学習過程（第1時／全5時間）

学習活動 ◇授業者の働きかけ ・予想される生徒の反応	○留意点 □評価
<p>1 常時活動（発声練習等）</p> <p>2 音素材に出会う。</p> <p>① 『COFFEE BREAK』を視聴する。</p> <p>◇ どのような作品でしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>紙コップが使われていたね</li> <li>〇〇（コーヒーショップ）みたいだったね</li> <li>途中から女の人も入ってきたね</li> <li>いろんな鳴らし方をしていたね</li> <li>底とかふたをたたいていたね</li> <li>こすったり、指ではじいたりもしていたね</li> <li>ストローを使うところもあったね</li> </ul> <p>② 紙コップでさまざまな鳴らし方を試す。</p> <p>◇ 紙コップを一人ひとつ選んで、作品に出てきた鳴らし方を真似してみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>私は蓋つきがいいな</li> <li>指ではじくのをやってみようかな</li> <li>どんなふうにとたくと良い音が鳴るかな</li> <li>机の上でこすって鳴らすのをやってみよう</li> </ul> <p>3 『COFFEE BREAK』の冒頭のリズムを練習する。</p> <p>◇ はじめのところのリズムをみんなでやってみましょう。4種類あるので、真似して覚えて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>常時活動を終え、次の2点を伝えて次の学習活動に進む。             <ol style="list-style-type: none"> <li>本時から新しい題材に入ること（全5時間）</li> <li>まず新しい題材に関わる作品を鑑賞することから始めること</li> </ol>             ※ 3点目として紙コップを楽器として用いた作品であることを伝え、「どのような鳴らし方をしているかに着目して聴いてみましょう」と観点を示すのもよい。           </li> <li>使われていた楽器とその鳴らし方、演奏の人数やパフォーマンスの様子から気付いたことを発現させる。</li> <li>大きさや素材・色、ふたの有無など異なる紙コップ・プラスチックカップを複数用意し（生徒の人数＋予備分），“じゃんけんで勝った班から”などとしながら一人ひとつ選ばせ、実際に鳴らしてみるようにする。</li> <li>5分程度自由に鳴らしてから、いくつかの鳴らし方を全体で取り上げ、全員で鳴らしてみる。</li> <li>作品の冒頭に出てくる4パターンのリズム（各16拍 ※ワークシート参照）を口頭で伝えながら全員で鳴らす。</li> </ul>

<p>いきましょう。</p> <p>◇ (4種類を全員で練習した後) もう一度作品を視聴するので、今練習したリズムを確認してみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 速いリズムは手のひらでたたくっていうより指先を使っていたね</li> <li>・ しゃーしゃーしゃーしゃーっていうリズムをいい感じに響かせるにはプラスチックよりも紙コップの方がよさそうだな</li> <li>・ 底を机に打つときは、角を使うとよさそうだな</li> </ul> <p>◇ 今日のまとめとして、一人1パート選んで重ねてみましょう。1番目から16拍ずつずらして重ねますよ。</p> <p>4 次時以降の学習活動について知り、見通しを持つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『COFFEE BREAK』の冒頭部分を提示し、実際にどのように演奏しているかを参考にさせる。</li> <li>・ はじめに選んだコップと異なるコップを使用してみたくなった場合には、仲間の使っているものと交換させたり、予備のコップを使わせたりし、さまざまな音を試すことができるようにする。</li> </ul> <p>・ 16拍間ずつ入りのタイミングをずらしながら4パートを重ねる。次時は役割分担をするが、ここでは自由に選ばせることとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時で取り組んだことをもとに次時からは4人班でリズムを作ることを伝え、片付けに入る。</li> <li>・ 授業者が用意した紙コップ・プラスチックカップを引き続き使用できるが、使ってみたい紙コップ等を自分で用意できる場合は、次時以降持ってきてよいことを伝える。</li> </ul> <p>□ 本時は記録に残す評価は行わないが、最終時に行う主体的に学習に取り組む態度の評価に向けた観察をする。</p>
---	--

## 7 ワークシート (次項)

# フーガの仕組みを取り入れて曲をつくろう

2年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_



曲全体の構成を、次の【A】→【B】→【A】の流れにします。

【A】①から順番に重ね、④まで重なったら「キメのリズム」を全員で鳴らす。

担当者名	リズム（8拍間）	回数
①	しゃーしゃーしゃーしゃーしゃーしゃーしゃーしゃー	8回
②	ずーんち・ずーんち・ずーんち・ずーんずんち	6回
③	たかたん・たんたか・たったんた・たかたん・たんたか・たったんた	4回
④	うんぴこぴこーぴっぴっこー・うんぴこぴこーぴっぴっこー	2回

それぞれのリズムを重ねたら、キメのリズムに進みます

《考えることその1》全員で鳴らすキメのリズム（8拍間）を考える。

※ 自分たちが覚えやすいように枠内に表そう。

拍	1	2	3	4	5	6	7	8
リズム								

【B】共通のリズム（=Bの部分の主題）を考えて、重ねる順番を決める。

《考えることその2》フーガの仕組みにするための、共通のリズム（8拍間）を考える

※ 自分たちが覚えやすいように枠内に表そう。

拍	1	2	3	4	5	6	7	8
リズム								

共通のリズムを決めたら、ずらして入る順番とタイミングを決めます

拍	1 2 3 4	5 6 7 8	1 2 3 4	5 6 7 8	1 2 3 4	5 6 7 8	1 2 3 4	5 6 7 8
例			→					
①								
②								
③								
④								

はじめの【A】に戻って、「キメのリズム」で終わる。

# 「フーガの仕組みを取り入れて曲をつくろう」を振り返る

2年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

1 本番の演奏であなたが使ったコップの特徴をそれぞれ選択肢から選び、丸で囲みましょう。

- ① コップの材質      紙      ・      プラスチック      ・      その他 (                      )
- ② 大きさ                      どちらかというときさめ      ・      どちらかというとき大きめ
- ③ ふたの有無              有      ・      無

2 1のコップを選んだ理由を簡潔に述べてください。

※ 本番で使ったコップと、本来あなたが使いたかったコップが異なる場合は、あなたが使いたかったコップを想定し、どうしてそれが良かったのか教えてください。

3 作曲と練習の過程を思い出し、グループのメンバーの取組について相互評価してください。

**【貢献度の基準】**

- A…アイデアを積極的に出し、その意見によって作曲や練習を進められたり、良い表現につながられたりした。
- B…アイデアをそれなりに出し、曲の完成につながられるように尽力していた。
- C…あまりアイデアを出さなかったが、グループのメンバーに言われたことはやっていた。
- D…ただそこにいた。
- E…欠席だった。

メンバーの氏名	作曲への貢献度	練習時の貢献度
	A B C D E	A B C D E
	A B C D E	A B C D E
	A B C D E	A B C D E
	A B C D E	A B C D E

4 今回、作曲や演奏する上で自分なりにこだわって見たことを教えてください。